

# 学校生活における児童生徒の適応課題の早期発見と支援

高知市立旭小学校 教諭 河内 美智

## 1 はじめに

高度情報化、少子化、核家族化など現代社会の変容に伴い、児童生徒にかかわる問題が多様化、深刻化している。依然として多数に上る不登校児童生徒、いじめ問題、家庭の養育力や教育力の低下、発達障害など特別な支援を必要とする児童生徒、少年犯罪の低年齢化やネット犯罪など社会環境の変化が児童生徒に大きな影響を与え、学校現場はこうした様々な問題に対応しなければならない状況にある。<sup>1)</sup>したがって、今後もますます児童生徒理解を深め、適切な支援を行っていくことが重要である。

医学部神経精神科学教室の心理プログラムでは、平成17年度より研究実践中学校との共同研究により、Q-Uによる『学級適応観評価』と、S-HTP 描画法による『課題解決態様の分析と評価』を併用する心理・教育アセスメントにより、生徒の学校生活や学級における指導や適応の課題を発見し個々の生徒理解を深め、フィードバックされたアセスメントの結果を学級づくりや仲間づくりに反映する方法の研究を推進してきた。(高知大方式生徒支援システム) 本研究においてもこの生徒支援システムの研究を推進し、児童生徒の抱える適応課題の早期発見を行い、さらに人間関係づくりによる支援方法を研究して学校現場での活用を図ることとした。

## 2 研究の目的

昨年度に研究された生徒支援システムをもとに、臨床的な素養や経験が必ずしも十分でない教師でも短期間の講習で習熟でき、児童生徒理解に活かすことのできる描画の分類整理法をさらに研究推進し、学校生活に不適応な状態にある児童生徒に対する適切な指導や必要な支援の方法を検討する。その後、実際の学級経営の中でその効果を検証する。

## 3 研究内容

(1) 高知大方式生徒支援システムの導入の中学校(高知市内 A校 全12学級)における研究実践

ア アセスメントの実施

(ア) 調査内容と方法

- a 楽しい学校生活を送るためのアンケート「Q-U」と「S-HTP」描画法を併せて実施する。
- b 実施回数と時期・・・1回目…6月、2回目…11月
- c 検査者・・・筆者とA校の特別支援教育コーディネーター

イ 読み取りと支援や対応

(イ) Q-U 学級満足度尺度

「承認得点」と「被侵害・不適応得点」の2つの得点から、「学校生活満足群」「非承認群」「侵害行為認知群」「学校生活不満足群(要支援群)」の4つの群に分け、いじめや不登校の早期発見や学級状態を把握する。

(イ) S-HTP 描画法

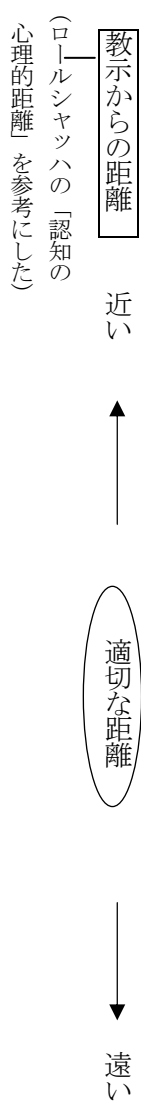
描画に表れた教示(課題)に対する適応性やパーソナリティーを判読し、個別支援につなげる。

- a 準備物 ケント紙1枚(A4) HB鉛筆2本
- b 教示  
「家と木と人を入れて何でも好きな絵を描いてください。」  
「裏に絵の説明を書いてください。」
- c 留意点
  - ・用紙は横に使用し、ものさしは使用しない。
  - ・写生のように描いたり、人を棒人間に描いたりしないようにする。
  - ・いい加減でなくできるだけ丁寧に描く。
  - ・隣の人の絵を見たり邪魔したりしない。

ウ 改訂版 S-HTP 分類表による心理状態の読み取りと支援方法（表 1）

表 1 改訂版 S-HTP 分類表 2009

分類	心理状態	チェックすべき生徒に対する支援方法
圧縮	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた課題のみに対応するので、教示に対してまじめに反応しているかのように見える。</li> <li>課題に対し反応が硬く自由さが無い。</li> <li>対人関係が広がりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から生徒とのコミュニケーションを大切にし、自己表現ができるように配慮する。</li> <li>個性をうまく引き出し、生かせる場面を工夫する。</li> <li>対人関係を円滑にする場面設定を心がける。</li> <li>活動後に、自信を持たせるような評価の工夫をする。</li> <li>※ 暗さや寂しさ等が表れた描画は、「チェック」</li> </ul>
不全	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実への順応を優先させ個性が出せない。</li> <li>自己の世界を作ることが苦手である。</li> <li>対人関係が広がりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 暗さや寂しさ等が表れた描画は、「チェック」</li> </ul>
未熟	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動面において幼さが残り、未熟、混乱、幼稚な表現が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割を与えて、努力の過程を具体的にほめる。</li> <li>様々な場面において、励ましや声かけを多くする。</li> <li>※「カンファレンス」</li> </ul>
調和	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して柔軟に反応できる。</li> <li>自分の世界を自由に表現でき、現実から大きく逸脱せずに対応できる。</li> <li>適度な余裕や遊び心がある。</li> <li>周りの雰囲気合った対応ができる。</li> <li>対人関係が豊かで、心も安定している場合が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な個別支援の必要はないと思われるが観察や声かけを心がけ、些細な変化にも注意する。</li> <li>情報収集に努める。</li> <li>※ 暗さや寂しさ等が表れた描画は、「チェック」</li> </ul>
破壊・攻撃	<ul style="list-style-type: none"> <li>破壊や攻撃、衝動など感情のコントロール不良の状態が見られる。</li> <li>日常のストレスをうまく発散できずに内面に葛藤を抱えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や自分の好きなこと・得意なことなど、自分なりのストレス解消する方法と一緒に考える。</li> <li>様々な場面において声かけを忘れず、かわりを多く持つ。</li> <li>※「カンファレンス」</li> </ul>
逸脱	<ul style="list-style-type: none"> <li>素直に課題に取り組むことができない。</li> <li>自己顕示性が見られる。</li> <li>現実から逸脱するような独特な自己の世界を持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から声かけをし、信頼関係を作る。</li> <li>話をじっくり聞く姿勢を大切に、後押しする指導や声かけをする。</li> <li>保護的に安心できる居場所を作る。</li> <li>※「カンファレンス」</li> </ul>



エ 結果分析の手順

- (ア) Q-U と S-HTP 描画法の結果をそれぞれまとめ、個人、学級、学年の状態を把握する。
- (イ) Q-U のプロット図に、S-HTP 描画法の結果のチェックまたはカンファレンスになったものを重ね合わせた複合プロット図を作成し、全体での支援と個別での支援を判断する。  
 〈満足群など各群においてチェックまたはカンファレンスになった描画とそうでない描画によって適応状態の違いを確認し、個別支援を要する生徒（困難な問題を抱えていると予想される生徒）を見つけ出す。〉

オ 学年検討会

アセスメントの分析結果と学級担任からの事例報告を基に、適応課題を抱えていると思われる生徒を確認し、学年団で支援方法や取り組み内容を話し合い、下記の支援に努める。

《学級支援》

- ・ 特別活動や道徳の時間を活用し人間関係づくりや集団づくりに重点を置いた取り組みをする。
- ・ 体育祭や文化祭等の行事に向けての取り組みを充実させる。

《個別支援》

- ・ Q-U と S-HTP 描画法の区分別支援方法を参考にして、学習や部活動の場で生徒に働きかける。

- ・ 日頃より生徒とのコミュニケーションを心掛け、心配なことや困っていることなどないか気軽に話を聞くなど、生徒理解に努める。
- ・ 自信や意欲を高めるため、個々の頑張りを認め肯定的な評価をしていく。
- ・ 係活動や委員会活動、部活動においてやりがいや充実感を感じられるよう支援する。
- ・ 教員と家庭との情報交換をして連携を図る。

## (2) 実践研究

### ア S-HTP 描画法の分類整理法の改訂について

#### (ア) A中学校の描画の分類をした教師へのアンケート実施と結果分析

臨床的な素養や経験が必ずしも十分でない教師だけでどの程度まで分類ができていくのかを把握したいと考え、アンケートを6月に実施した。その回答からは、約半数の教師が大いに迷いながら分類をしているということが明らかになった。また、自由記述の欄には、「生徒の成長が思われてうれしかった」や「生徒の内面を別の方向からみることで生徒理解の参考になった」という感想がある一方で、「生徒のことをある程度分かっているつもりだが、予想外の絵だった」や「淋しい心象風景が(描画に)投影されていて日頃の挙動から改めて考えさせられるものがあった。」などの感想も寄せられた。「分類自体が初めてで判断に迷った」や「分類の基準をよく把握していないので迷う」、「子どもの実態を知っていると描画の判断に先入観が入ってしまうのではないかなど率直な意見もあった。これらの声を参考にして、分かりやすく使いやすい分類表の改訂を考えていくことにした。

#### (イ) 専門家による描画分類についての研修会実施と専門家の分類と学年団の分類の比較検討

A中学校において秋の学習発表会時に描画分類のワークショップを開催。このワークショップでは、教師自身が絵を描く体験をするとともに、生徒が描いた描画分類を行う機会を設けた。グループで、その絵がどの区分に当てはまるのかを協議をしながら分類をした。提供された代表的で特徴的な描画については、どのグループも比較的迷わずに分類することができた。

また、Q-UとS-HTP描画法のアセスメント実施後に開催される学年検討会に参加した。回を重ねるごとに先生方が描画分類に慣れていく様子が見られた。その結果、特に個別の支援が必要と考えられる“カンファレンス”の描画(未熟・破壊攻撃・逸脱の区分の描画)についても、カンファレンス以外の描画(圧縮・圧縮チェック・不全・不全チェック・調和・調和チェックの区分の描画)も1回目より2回目の方が専門家の分類と一致する率が高くなり、分析力がついてきたと言える。(表2)

表2 専門家と学年団の分類比較

	カンファレンスの描画の一致率	カンファレンス以外描画の分類一致率
1回目(6月)	62枚中35枚 (56.5%)	415枚中193枚 (46.5%)
2回目(12月)	84枚中54枚 (64.3%) ↑	355枚中205枚 (57.8%) ↑

#### (ウ) 小学校での描画分類表適応の可能性(高知市内 B校 全18学級)

A中学校で活用されている描画分類表は小学校にも適用できるのかを試みた。B小学校に協力を依頼し、7月に1学級1校時分の時間でS-HTP描画法を実施した。その後、学年団の教師で担任する学年児童の描画の分類を行った。この描画法は小学生でも無理なく集団で実施できた。しかし、いざ分類の作業を始めてみると、描画に含まれる要素が児童の発達と大きくかわっており、その特徴を捉えたうえで描画を判読していかなければならないことが分かった。そこで、先行研究<sup>2)</sup>に従った描画の要素の分析を行い、児童生徒の描画の特徴を整理した。さらにその結果を3年ごとに区切って小学校低学年・高学年・中学校の3グループに分け、各時期の特徴を捉えた。(資料1)

#### a 各段階ごとの描画の特徴(資料2)

##### (a) 小学生の描画の特徴

- ・ 小学校前半では木の幹や枝、樹幹、人の表現が大きく変化していく。
- ・ 小学校後半から描線がとぎれのない一本線から複数線やスケッチ風の線が増え、より自然で柔

軟な描画となる。

- ・小学校後半時期には色々な向きの人が増え、直立不動でない動きのある人の描画が増える。
- ・小学校後半の時期には家をより立体的に描く。(精神的に成長しているかどうかの要素)

(b) 中学生の描画の特徴

- ・家・木・人の描写が小さくなる。
- ・中学生では人の省略が多くなり、棒人間や顔の表情のない人を描く。
- ・陰影のある絵が見られるようになる。

b 男女差について (資料3)

- ・女子は、身近なものを中心とした現実的な絵が多い。また、素直に課題に応じるので安定した「調和」区分の描画が多くなる。
- ・男子は指示通りに描くことに抵抗を示すことが多い。また、自分なりの表現をしようとして成功すれば発想豊かに個性的で芸術的な絵になるが、試みが成功しない時には不安定な絵になってしまう。

c 描画の分類整理についての考察

これまでの発達の研究によると、幼児の絵がなぐり描き期から図式画期(観念画期)へと移行するのは5歳頃と言われている。さらに小学校の3、4年生頃から見たとおりに写実しようとする写実画期が、15歳からは美術的絵画期が始まると言われている。つまり、小学校3、4年生頃までは基本的には観念画期を脱してはいないが、表現は写実画期へと向かって分化をしていく時期である。小学校中学年までの描画は、まだ発達途上にある段階であるので、中学生を対象とした描画分類をそのまま適用することはできないと考えられる。小学校高学年頃になると中学生対象の分類区分を適用することができるかもしれない。実際の分類作業の中でも、小学校高学年の描画は「破壊・攻撃」「逸脱」と迷いなく判断できるものもあったが、「未熟」や「不全」、「調和」区分に入りそうな描画では、どの区分に分類すればよいのか中学生の時よりも判断に迷ってしまったものもあった。

以上を総合的に判断すると、小学校の児童の描画を判読する場合には、小学校4年生くらいまでは、過剰や欠乏などの要素や暗さや筆圧の弱さ等を判断基準とした「チェック(描画)」と安定的な「調和」の区分で分類し判読することが妥当である。一方、小学校高学年になると、学級の実態に合わせて中学生用の分類表を活用できると思われる。

一方、分類表を実際に使って分類をした先生方へのアンケートの結果や研修会での様子を基に、今まで活用していた中学校の分類表には、ロールシャッハの「認知の心理的距離」を参考にして、「教示からの距離」の図を加えた。また、呼び方が煩雑だったため「圧縮」・「不全」・「調和」の区分で寂しさや暗さなどある描画を「チェック・カンファレンス」から「チェック」と改め、「未熟」・「破壊・攻撃」「逸脱」は、今までどおり、「特に個別支援が必要」という意味で「カンファレンス」の描画として表示することとした。これらの分類表改訂により先生方の判断がより容易になると思われる。

(表1)

イ 具体的支援について

(ア) 中学校での取り組みに学ぶ

a 心の冒険教育やグループワーク・トレーニングを取り入れた実践

A中学校では人間関係づくり・集団づくりを目的として、心の冒険教育の手法やグループワーク・トレーニングを取り入れた活動に全校で取り組んでいた。特に中学1年生の仲間づくりの行事にはこの心の冒険教育の手法を取り入れた活動をしたり、参観日の学年懇談会時に保護者を対象に活動を実施したりしていた。また、講師を招聘して校内研修会も数回開催された。これらの授業や研修会に参加して生徒の様子を観察した。生徒たちは仲間とお互いに協力しながら色々な活動にチャレンジしていった。初めはまとまりのなかったクラスが、楽しさや達成感を味わい、ルールを守ることの大切さを実感し、仲間と良好な関係を徐々に築いていく様子を観察することができた。

b 再テスト法の実施と分析・考察

支援方法と取り組みの効果を検証するため、1回目(6月)と2回目(11月)のQ-UとS-HTP描画法の結果を比較した。近年、全国的に「中1ギャップ」の問題が取り上げられ、1年生から2年生

にかけてのきめ細やかな学級経営が課題解決の鍵であると言われている。本研究においても、その大切な時期の中学1年生のあるクラスを研究の対象とした。

下記のQ-UとS-HTP描画法の結果を重ねて表示した複合プロット図(図1)からは、「非承認群」の人数が若干減り、「学校生活満足群」に位置する生徒が多くなっていることが読み取れる。特に「学校生活不満足群」や「非承認群」のS-HTP描画法のチェックやカンファレンスの描画は全く無くなり、全体的にもチェック・カンファレンスの枚数が減っている。(グラフ1) これらのことから、このクラスの生徒の適応が良好な方向に進み、支援の効果が表れてきたと思われる。

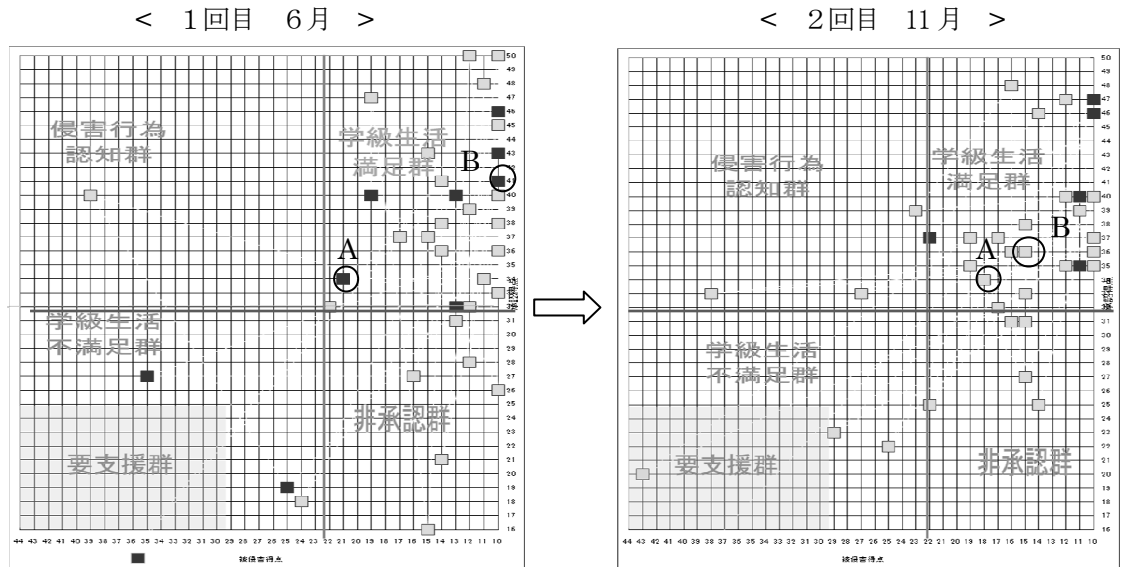
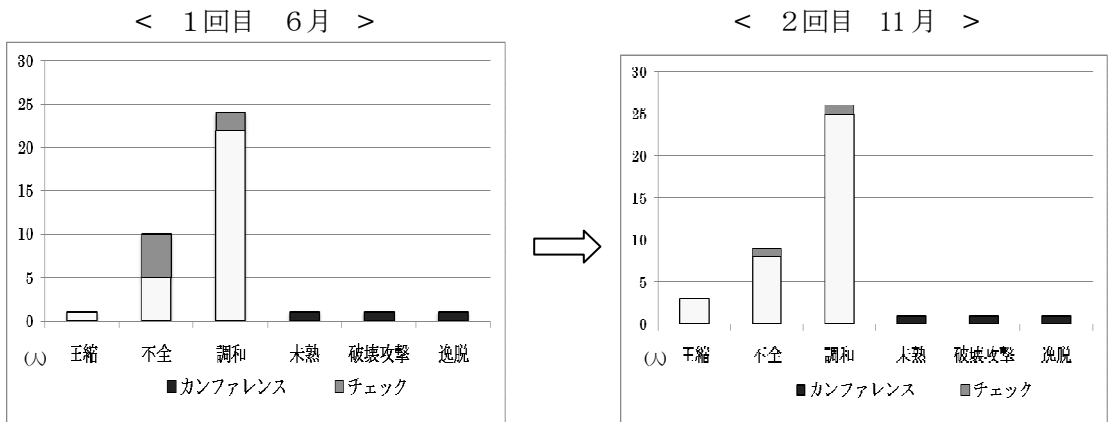


図1 Q-UとS-HTPの複合プロット図の比較 (■はチェックやカンファレンスの描画の生徒)



グラフ1 S-HTP描画法の分類比較

個別に見てみると、Aの生徒はQ-Uでは2回とも「学校生活満足群」に属しているが、1回目のS-HTP描画法実施時には「描けない…描けない。」とつぶやきながら画用紙のすみに家の門だけを描き、「不全・チェック」の描画だった。2回目の実施時にも「どうしよう描けない、絵は苦手だから…」と言いつつも、画用紙の画面全体に家と木と人を構成して「調和」の絵を描いた。描画法などのアセスメントを実施する場合には、お互いの信頼関係が結ばれ、安心できる環境の下での実施でなければ結果の信頼性は薄い。この生徒は、2回目の描画法実施時には、検査者や自分の描画を後に見ることになると予測される担任教師に対して信頼し安心感をもてたので、自分の世界を少し開いて描いてくれたのかもしれない。

Bの生徒も2回ともQ-Uは「学校生活満足群」に属している。しかし、1回目の描画は、破壊的要素が含まれる「未熟」であった。それが2回目には「調和」に変わった。この生徒の学級主任は授業や部活動中の子どもたちの様子をよく観察し、学年団の教員と常に情報交換をしていた。日々の声かけや励ましなど個別の対応も心がけた結果、この生徒の内面に良い変化をもたらしたと言えるだろう。

ウ 小学校での授業実践

小学校においても、人間関係づくりのプログラムが必要である。実施した授業(表3)のなかで、子どもたちはいきいきと活動していた。また、先生方からもこのような活動が今の子どもたちには必要であるという声が多く、この小学校の教育的ニーズに合った人間関係づくりやコミュニケーションのスキルを身につけるための「人間関係スキルアップ」の年間指導計画を立案した。(表4)

表3 実施した小学校の心の冒険教育とソーシャルスキルの授業

	学年	活動内容	ねらい	子どもたちの様子
1 学 期	3年生	アドジャン ビート ビーイング	友だちと活動を楽しむ。 1学期の生活を振り返り、今後の生活へと活かす。	・楽しく活動することができた。 ・男子と女子が仲良くしていこうとする意識を持ち始めた。
		2 学 期	1年生	ビート ジップ光線
あいさつの木に みをつけよう	気持ちのよいあいさつが交わされ合うクラスにする。		・朝の会や帰りの会で、意欲的に挨拶をしようと取り組んだ。	
はしの上のおおかみ	親切にすることの大切さをロールプレイを通して体験する。		・恥ずかしがって演じ、気持ちを感じるところまでいかない子どももいた。	
3年生	ミラーストレッチ インパルス・キャッチ		友だちと活動を楽しむ。	・友だちのがんばりに目を向け活動する子どもが増えた。
3 学 期	5年生	ちがいを認め合おう	周りの人がその日との気持ちを分かかってかわっていくことの大切さに気付く。	・自分で考えたせりふでのロールプレイは初めてだったが、演じてみて感じるものがあつた様子だった。
		上手なことわり方	自分も相手も大切に断り方のスキルを学ぶ。	・ステップに沿った断り方を真剣に考えることができた。

表4 「人間関係スキルアップ」の年間指導計画

	1学期	2学期	3学期
1年 (生活科)	「おはよう」「さよなら」という基本的なあいさつ	何かしてもらったら「ありがとう」という	自分から友達を遊びに誘う
2年 (生活科)	自己紹介	友達が話している時は最後まで聞く	遊びの入り方 「いーれて」「いいよ」
3年 (総合)	質問する (上手に話しかける)	3つの話し方 (主張的なスキル)	腹が立っても「カーッ」とした態度をとらない
4年 (総合)	ふわふわ言葉とチクチク言葉(あたたかい言葉)	親しくない人とでも区別をしないで班活動をする	友達の秘密は守る
5年 (総合)	やさしい頼み方	気持ちとのつきあい方	友達の気持ちを分かかって働きかける
6年 (総合)	上手な断り方	トラブルの解決策を考える	自分だけ意見が違っても自分の意見を言う 他の人に左右されなくて自分の考えで行動する

※ 13の基本ソーシャルスキル(\*2009 金山)を6年間で学べるように配置した。

#### 4 まとめ

Q-U と S-HTP 描画法の結果を適切な指導や必要な支援に活かすためには、日々の集団生活や学習場面の行動観察も重要になってくる。これらのアセスメントによって得られた情報を総合して、児童生徒の実態や背景を捉えていかなければならない。

また、アセスメントを意味あるものにするためには、単に診断分類するだけではなく、その児童生徒にとって今の適応課題の問題を早期に分析し、働きかけることが重要になってくる。その働きかけで児童生徒を良い方向に導くことができ、問題の拡大や深刻化を防ぐことにもなると言える。これは、たとえアセスメントが十分であっても、児童生徒の抱えている問題の原因を家庭環境や本人の性格にあると結論付けるばかりでは何の援助にもならないということである。その環境のなかで具体的にどのような援助ができるのかを考え、着実に支援を実行しなければならない。

近年、個人を対象にした支援方法だけでなく、学級集団を対象とした様々な心理教育的手法が提唱されている。児童生徒の発達特性を知り、それぞれの適応課題に応じた適切な指導と必要な支援を行い見守ることが、全ての児童生徒の成長につながっていくと言える。

#### 5 今後の課題

児童生徒の内面を捉えることのできる S-HTP 描画法について、初心者自分も先生方とともに学ぶことができた。これも長年研究を積み上げてきた上記の A 中学校の研究実践があったからのことだと思う。現在、すでに何校かの中学校がこの S-HTP 描画法を実施しており、A 中学校を中心にしてこの描画法が広まりつつあると聞く。しかし、小学校においては、S-HTP 描画法はまだまだ知られていない。今回この研究に協力してくださった B 小学校の担任や特別支援教育コーディネーターから、「気になる児童がいるので、再度分析してほしい」という依頼を受け、2 回目の S-HTP 描画法を実施した。これは、小学校の先生方も、この S-HTP 描画法の有効性を実感したからその依頼であったと思う。今後、小学校教師として現場に戻り、現場の先生方と一緒にこの方法を研究し広めていきたい。

また、先行研究と今回の描画の細かな要素の比較をしてみると、データにいくらかの違いがあることが分かった。これらの違いは地域差からくるものか、それとも時代背景の違いから変化しているものなのかを判断するためには、さらに継続的な研究をしていかなければならない。

支援方法についても、人間関係づくりや集団づくりですばらしい支援方法の実践を行ったとしても、1 つの学級だけの取り組みで終わらせてしまえば、全校の児童生徒の成長にはつながっていかない。不登校やいじめ問題などで複数の教員等によるチーム支援が求められている今、児童生徒の発達過程における小中 9 年間の長期的な視点を持ち、学校全体で取り組んでいくことが必要である。各学校のそれぞれの児童生徒の課題は何かを見極め、教職員の共通理解の基につながりを持って実践していかなければならない。

#### 6 終わりに

この研究で今まで経験したことのない多数の描画に触れる機会を得た。教室ではおとなしく目立たない子が内面に何らかの問題を抱えていると推測される絵を描いたり、その子が描くとは思ってもいないような空想的、芸術的な絵を描いたりして驚かされた。また、たくましく成長していることを感じられる絵に出会うとうれしくなり、その子を応援していきたい気持ちが強まることもあった。子どもたちの描く一枚の絵は、言語で語られる世界とはまた違った世界や多くのことを見る者に語りかけてきた。授業実践においても、小学生と中学生にかかわる機会に恵まれ、大変有意義な一年間であった。

この研究をご指導していただいた医学部の加藤邦夫教授、近藤御風先生、神経精神科学教室の心理士のみなさん、そして実践研究でお世話になった小学校、中学校の児童生徒のみなさんや先生方に感謝申し上げます。

#### <引用・参考文献>

<sup>1)</sup> 文部科学省 児童生徒の教育相談の充実について 教育相談等に関する調査研究協力者会議 報告、2008 年 7 月

<sup>2)</sup> 三上直子 『S-HTP 法 統合型 HTP 法による臨牀的・発達のアプローチ』 誠信書房、2008 年

プロジェクトアドベンチャージャパン 『グループのちからを生かす 成長を支えるグループづくり』 みくに出版、2008 年

國分康孝監修 清水井一編 『社会性を育てるスキル教育 教育課程導入編』 図書文化社、2008 年

小林正幸 『先生のためのやさしいソーシャルスキル教育』 ほんの森出版、2005 年

\* 金山元春 高知大学教育学部准教授 講義より 2009 年 8 月

〈資料 1〉 ◇S-HTP における各段階ごとの描画の特徴

( 2009 年 6~7 月 調査 )

項目		小学生 低学年(1~3年)			小学生 高学年(4~6年)			中学生(1~3年)			
		男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	
		116 名	121 名	237 名	114 名	118 名	232 名	233 名	231 名	464 名	
(1) 描線	とぎれのない一本線	87.9 (%)	87.6 (%)	87.8 (%)	53.1	39.8	46.3	64.8	62.8	63.8	
	とぎれとぎれの本線	3.4	5.8	4.6	15.0	14.4	14.7	12.4	4.8	8.6	
	複数線	8.6	6.6	7.6	26.5	42.2	34.6	18.0	16.5	17.2	
	スケッチ風の線	0	0	0	6.2	4.0	5.2	5	16.0	10.3	
(2) 影	影	0	0	0	2.7	2.5	2.6	0.4	4.8	2.6	
(3) 課題以外の付加物	付加物なし	1.7	4.1	3.0	12.4	5.9	9.1	20.2	8.2	14.3	
	(付加物あり)	98.3	95.9	97.0	87.6	94.1	90.1	79.8	91.8	85.7	
	山を付け加える	0.9	2.5	1.7	4.4	3.4	3.9	6.4	8.7	7.6	
	道	10.3	11.6	11.0	13.3	8.5	10.8	9.9	15.6	12.8	
	囲い	2.6	2.5	2.5	10.6	11.0	10.8	6	7.8	6.9	
	門	2.6	0.8	1.7	1.8	3.4	2.6	2.1	0.4	1.3	
	雲	38.8	57.0	48.1	12.4	26.3	19.5	11.2	19.9	15.5	
	太陽	39.7	55.4	47.7	18.6	28.8	23.8	17.6	24.7	21.1	
	月	0.9	0.8	0.8	2.7	0.8	1.7	1.3	3.5	2.4	
	虫	19.0	2.5	10.5	16.8	3.4	10.0	1.7	4.3	3.0	
	蝶	12.1	10.7	11.4	0	6.8	3.5	1.7	5.2	3.4	
	草花	21.6	31.4	26.6	17.7	42.4	30.3	9.0	40.7	24.8	
	乗り物	14.7	5.0	9.7	12.4	3.4	7.8	10.3	5.2	7.8	
	動物	12.1	22.3	17.3	5.3	16.1	10.8	5.6	4.8	5.2	
	魚	4.3	0.8	2.5	8.0	5.9	6.9	2.1	3.0	2.6	
	鳥	6.9	11.6	9.3	15.0	16.9	16.0	3.9	9.5	6.7	
	川	2.6	0	1.3	8.8	6.8	7.8	6.0	3.0	4.6	
	畑	0.9	1.7	1.3	1.8	2.5	2.2	3.0	1.3	2.2	
	池	1.7	1.7	1.7	1.8	2.5	2.2	0.9	2.2	1.5	
	踏石	3.4	0.8	2.1	0	2.5	1.3	0	2.2	1.1	
地面	全体	9.5	4.1	6.8	12.4	16.1	14.3	10.3	6.9	8.7	
		部分	34.5	39.7	37.1	51.3	52.5	51.9	30.0	50.6	40.6
	なし	56.0	55.4	55.7	34.5	35.6	35.1	60.1	42.9	51.8	
(4) 人と家の関係づけ	家の中にいる	中だけ	6.9	12.4	9.7	8.1	8.5	8.3	6.9	4.8	5.8
	中と外		6.9	17.4	12.2	12.6	7.7	10.1	3	6.1	4.5
	家から遠ざかる	3.4	10.7	7.2	4.5	3.4	3.9	2.6	3	2.8	
	ドアに手をふれている	0.9	1.7	1.3	3.6	0.9	2.2	0.9	0	0.4	
	家を見ている	0	0	0	0	0	0	0.9	1.3	1.1	
	家へと歩いている	16.4	17.4	16.9	8.1	6.8	7.5	6.1	6.5	6.3	
	家の上にいる	1.7	0	0.8	2.7	0	1.3	3	0.9	1.9	
家によりかかっている	0	0	0	0	0.9	0.4	0	0	0		
(5) 人と木の関係づけ	木に接している	0.9	0	0.4	9.0	1.7	5.3	0.9	5.2	3	
	木によりかかっている	0	0	0	0	4.3	2.2	2.2	4.3	3.2	
	木に登っている	3.4	0.8	2.1	2.7	1.7	2.2	3.5	0.4	1.9	
	木にぶら下がっている	1.7	0.8	1.3	0.9	0.9	0.9	0.4	0	0.2	
	木を見ている	6	0.8	3.4	1.8	2.6	2.2	3.0	0.9	1.9	
(6) 人の数	1人描く	45.2	31.4	38.1	40.5	45.3	43.0	63.6	47.6	55.6	
	人を2人描く	24.3	31.4	28.0	25.2	29.9	27.6	14.7	24.7	19.7	
	人が3人以上	30.4	37.2	33.9	34.2	24.8	29.4	21.6	27.7	24.5	



(7) 人の大きさ	0～4cm	34.8	11.6	22.9	56.8	20.5	38.2	68.4	39.8	54.1
	4～8cm	46.1	57.0	51.7	35.1	60.7	48.2	22.5	48.5	35.5
	8～12 cm	16.5	24.8	20.8	8.1	17.9	13.2	8.2	8.2	8.2
	12～16 cm	2.6	5.8	4.2	0	0.9	0.4	0	2.6	1.3
	16 cm以上	0	0.8	0.4	0	0	0	0.4	0.9	0.6
(8) 性別	同姓を描く	83.5	76.9	80.1	72.1	71.8	71.9	61.0	64.9	63.0
	異性を描く	0.9	0.8	0.8	0	2.6	1.3	0.4	2.6	1.5
	両性を描く	8.7	21.5	15.3	9.0	17.9	13.6	3.9	18.6	11.3
	人の性別不明	7.0	0.8	3.8	18.9	7.7	13.2	34.2	13.9	24.0
(9) 運動	直立不動	61.7	55.4	58.5	27.9	38.5	33.3	57.1	48.5	52.8
	消極的な運動	29.6	37.2	33.5	41.4	51.3	46.5	26.4	39.8	33.1
	積極的な運動	8.7	5.8	7.2	30.6	10.3	20.2	16.5	11.7	14.1
(10) 部分	頭が4頭身以上大きい	56.5	66.1	61.4	43.2	51.3	47.4	40.3	38.1	39.2
	棒人間	4.3	0	2.1	6.3	3.4	4.8	9.1	7.4	8.2
	表情がない	1.7	0	0.8	7.2	9.4	8.3	32.5	17.7	25.1
	首のない人を描く	27.8	9.1	18.2	32.4	5.1	18.4	24.2	13.4	18.8
	空白の目	1.7	0.8	1.3	0	0.9	0.4	1.3	0.4	0.9
	顔から足が出ている	0.9	0	0.4	0	0	0	0	0	0
	ひじあり	9.6	18.2	14.0	14.4	26.5	20.6	16.0	21.2	18.6
	ひざあり	2.6	6.6	4.7	8.1	12.0	10.1	10.4	12.6	11.5
	手なし	0.9	0.8	0.8	0	0	0	1.3	1.7	1.5
	短すぎるうで	9.6	5.8	7.6	3.6	0.9	2.2	0	1.3	0.6
(11) 向き	正面	81.7	86.0	83.9	54.1	69.2	61.8	60.6	64.9	62.8
	横向き	9.6	4.1	6.8	19.8	10.3	14.9	16.5	14.3	15.4
	後ろ向き	0	0	0	5.4	4.3	4.8	7.8	5.6	6.7
	斜め	0.9	0	0.4	0	0.9	0.4	3.5	1.7	2.6
	混合	7.0	9.9	8.5	20.7	15.4	18.0	11.7	13.4	12.6
(12) 家の数	1軒	80.2	84.3	82.3	79.6	82.9	81.3	82.0	81.4	81.7
	2軒	10.3	6.6	8.4	10.6	8.5	9.6	7.7	9.5	8.6
	3軒以上	9.5	9.1	9.3	9.7	8.5	9.1	10.3	9.1	9.7
(13) 家の大きさ	0～4cm	14.7	4.1	9.3	10.6	2.6	6.5	15.0	15.2	15.1
	4～8cm	10.3	9.1	9.7	18.6	17.1	17.8	21.8	20.3	21.0
	8～12 cm	27.6	35.5	31.6	27.4	30.8	29.1	24.4	26.9	25.6
	12～16 cm	25.0	24.0	24.5	16.8	35.9	26.5	18.4	20.3	19.3
	16 cm以上	22.4	27.3	24.9	25.7	14.5	20.0	20.1	18.9	19.5
(14) 壁の面	1面	92.2	90.9	91.6	75.2	76.1	75.7	67.0	67.5	67.2
	2面 平面的	1.7	1.7	1.7	8.0	4.3	6.1	2.1	1.7	1.9
	2面 立体的	6.0	7.4	6.8	14.2	19.7	17.0	27.9	28.6	28.2
	3面	0	0	0	2.7	0.9	1.7	3.0	2.2	2.6
(15) 特異な家	山小屋風の家	0.9	0	0.4	2.7	3.4	3.0	0.4	1.7	1.1
	ビル	2.6	1.7	2.1	2.7	0	1.3	2.6	3.0	2.8
	学校	0.9	0.8	0.8	1.8	0	0.9	0.9	0.9	0.9
	要塞・城	0	0	0	1.8	0	0.9	0.9	0	0.4
(16) 付加物	窓にカーテンあり	6.9	20.7	13.9	1.8	21.4	11.7	4.3	14.2	9.3
	アンテナ あり	4.3	0.8	2.5	3.5	0	1.7	1.3	1.3	1.3
	煙突 あり	25.9	29.8	27.8	12.4	22.2	17.4	6.9	21.1	14.0
	屋根の模様	35.3	54.5	45.1	20.2	23.7	21.6	15.5	22.5	19.0
	呼び鈴	0.9	0	0.4	1.8	1.7	1.7	1.3	3.0	2.2

(17) 木の数	1本	62.6	72.7	67.8	55.0	61.0	58.1	59.1	60.4	59.8		
	2本	18.3	17.4	17.8	22.0	24.6	23.3	15.2	13.0	14.1		
	3本以上	17.4	9.9	13.6	22.9	14.4	18.5	25.7	26.5	26.1		
(18) 木の大きさ	0～4cm	8.7	6.6	7.6	11.0	3.4	7.0	14.3	12.6	13.5		
	4～8cm	18.3	8.3	13.1	20.2	18.6	19.4	23.9	23.5	23.7		
	8～12 cm	26.1	24.0	25.0	28.4	25.4	26.9	23.5	26.1	24.8		
	12～16 cm	21.7	32.2	27.1	14.7	21.2	18.1	16.1	16.5	16.3		
	16 cm以上	23.5	28.9	26.3	25.7	31.4	28.6	22.2	21.3	21.7		
(19) 木の特徴	枯れ木	0	0	0	0	0	0	1.3	0	0.7		
	空白な幹	77.0	76.0	76.5	69.7	66.9	68.3	76.1	69.1	72.6		
	上方直閉幹	32.7	30.6	31.6	2.8	2.5	2.6	0.9	0	0.4		
	下方直閉幹	27.4	13.2	20.1	10.1	6.8	8.4	4.3	5.2	4.8		
	全枝先直	7.1	14.0	10.7	1.8	4.2	3.1	4.3	2.2	3.3		
	直交枝	4.4	2.5	3.4	1.8	0	0.9	0	0	0		
	幹下縁立	24.8	27.3	26.1	21.1	19.5	20.3	14.3	12.2	13.3		
	枝描写なし	42.5	43.8	43.2	41.3	55.1	48.5	61.3	53.9	57.6		
	枝単線	0.9	4.1	2.6	3.7	3.4	3.5	4.8	0.9	2.8		
	枝幹単線	0	0	0	0	0	0	2.6	0.4	1.5		
	根の示唆	23.0	30.6	26.9	25.7	23.7	24.7	20.9	18.3	19.6		
	うず・模様	18.6	20.7	19.7	27.5	27.1	27.3	18.3	24.3	21.3		
	実のなる木	13.0	21.5	17.4	9.2	11.9	10.6	7.0	12.9	10.0		
	葉のある木	}	樹冠内	4.4	5.0	4.7	1.8	2.5	2.2	0.9	3.5	2.2
	樹冠なし		4.4	7.4	6.0	27.5	9.3	18.1	6.1	8.3	7.2	
木と家の合体	0	0	0	3.7	4.2	4.0	1.3	1.3	1.3			

〈資料 2〉

◇S-HTPにおいて男女差が有意に見られた項目……各項目についてカイ二乗検定を行った。

(1) 小学生 低学年 (1～3年) 以下の ( ) 内の印は、\*は $P < .05$  \*\*は $P < .01$  \*\*\*は $P < .001$ を示す。

(男子)

- ・虫を付け加える (\*\*\*)
- ・乗り物を付け加える (\*\*\*)
- ・人を4cm未満に小さく描く (\*\*\*)
- ・人の性別が不明である (\*)
- ・棒人間を描く (\*)
- ・首のない人を描く (\*\*)
- ・木の大きさを4～8cmで描く (\*)
- ・木を見ている (\*)
- ・木の下方がまっすぐに閉じている (\*)
- ・家を4cm未満に小さく描く (\*)

(女子)

- ・雲を付け加える (\*)
- ・太陽を付け加える (\*)
- ・動物を付け加える (\*)
- ・男女を描く (\*\*\*)
- ・窓にカーテンを描く (\*\*\*)
- ・人が家の中と外にいる (\*)
- ・人が家から遠ざかる (\*)
- ・屋根に模様を描く (\*)

(2) 小学生 高学年 (4～6年)

(男子)

- ・虫を付け加える (\*\*)
- ・乗り物を付け加える (\*)
- ・人を4cm未満に小さく描く (\*\*\*)
- ・人の性別が不明である (\*)
- ・首のない人を描く (\*\*\*)
- ・人が木に接している (\*)
- ・木の大きさを4cm未満に小さく描く (\*)
- ・葉のある木を描く (樹冠なし) (\*)

(女子)

- ・複数線で描く (\*)
- ・雲を付け加える (\*)
- ・蝶を付け加える (\*\*)
- ・草花を付け加える (\*\*\*)
- ・動物を描く (\*\*)
- ・男女を描く (\*)
- ・人の大きさを4～8cmで描く (\*\*)
- ・人の大きさを8～12cmで描く (\*)

- ・アンテナを描く(\*)
- ・家を4cm未満に小さく描く(\*)

(3) 中学生 (1～3年)

(男子)

- ・付加物なし(\*\*\*)
- ・地面なし(\*)
- ・乗り物を付け加える(\*)
- ・人を1人描く(\*)
- ・人を4cm未満に小さく描く(\*\*\*)
- ・人の性別が不明である(\*\*\*)
- ・普通像の人に顔を描かない(\*\*)
- ・首のない人を描く(\*\*)
- ・人が木に登っている(\*)
- ・木の枝を単線で描く(\*)

- ・人のひじを描く(\*)
- ・人が木によりかかっている(\*)
- ・窓にカーテンを描く(\*\*\*)
- ・煙突を描く(\*\*\*)
- ・家の大きさを12～16cmで描く(\*\*)

(女子)

- ・地面を部分的に描く(\*\*\*)
- ・影をつけて描く(\*\*)
- ・雲を付け加える(\*)
- ・蝶を付け加える(\*)
- ・草花を付け加える(\*\*\*)
- ・鳥を描く(\*)
- ・踏石を付け加える(\*)
- ・人の大きさを4～8cmで描く(\*\*\*)
- ・人の大きさを12～16cmで描く(\*)
- ・人を2人描く(\*)
- ・男女を描く(\*\*\*)
- ・人に消極的運動が見られる(\*)
- ・実のなる木を描く(\*)
- ・人が木に接している(\*\*)
- ・窓にカーテンを描く(\*\*\*)
- ・煙突を描く(\*\*\*)

〈資料 3〉

◇S-HTPにおいて区分別で有意差があった項目

(1) 小学生 低学年と高学年…26項目

(低学年)

- ・とぎれのない一本線で描く(\*\*\*)
- ・雲を付け加える(\*\*\*)
- ・太陽を付け加える(\*\*)
- ・蝶を付け加える(\*)
- ・地面なし(\*)
- ・直立不動の人を描く(\*)
- ・木の幹の上方がまっすぐに閉じている(\*\*\*)
- ・木の幹の下方がまっすぐに閉じている(\*)
- ・木の全部の枝の先がまっすぐに閉じている(\*)
- ・屋根に模様を描く(\*\*)

(高学年)

- ・とぎれとぎれの線で描く(\*)
- ・複数線で描く(\*\*\*)
- ・スケッチ風の線で描く(\*)
- ・影をつけて描く(\*)
- ・川を付け加える(\*)
- ・囲いを付け加える(\*)
- ・木によりかかっている人を描く(\*\*)
- ・人の判別が不明(\*)
- ・後ろ向きの人を描く(\*)
- ・積極的な運動をしている人を描く(\*)
- ・普通像の人に顔を描かない(\*)
- ・家を2面(立体的)に描く(\*)
- ・家を3面(立体的)に描く(\*\*)
- ・山小屋風の家を描く(\*)・呼び鈴を描く(\*)
- ・葉のある木(樹冠なし)を描く(\*)

(2) 小学生 高学年と中学生…8項目

(小学生高学年)

- ・複数線で描く(\*)
- ・門を付け加える(\*)
- ・虫を付け加える(\*)
- ・ドアに手をかけている(\*\*)
- ・木の幹の上方がまっすぐに閉じている(\*)

(中学生)

- ・直立不動の人を描く(\*)
- ・斜め向きの人を描く(\*\*)
- ・普通像の人に顔を描かない(\*\*)